

資産全体で考える運用の第一歩

最近、「食料品や日用品の値段が上がったな」と感じることはありませんか？
物価が上昇する中で資産をどのように管理し、活用していくかがこれまで以上に大切になっています。
一方で、「資産運用に興味はあるけれど、何から始めればいいのか分からない」という方も多いのではないのでしょうか。

資産運用を考える際に大切なのは、ご自身の資産全体を把握することです。まずは、「生活資金」
「今後5年以内に使う予定のあるお金」「余剰資金」の3つに分けて考えてみましょう。

①日々の生活に必要なお金(生活資金)

⇒ 食費や家賃、光熱費などの生活費や医療費、被服費、
急な出費(冠婚葬祭など)を賄うためのお金です。

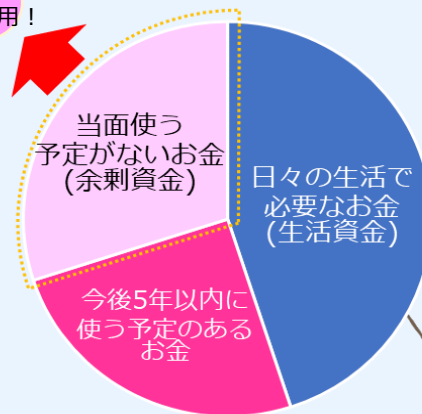
②今後5年以内に使う予定のあるお金

⇒ 子どもの教育資金、マイホームの購入資金、マイカー購入
資金などです。使うまでの期間やリスク許容度に応じて、
一部資金を運用に回すこともできます。

③当面使う予定のないお金(余剰資金)

⇒ 現在保有している資産から①と②を差し引いて残ったお金
です。これがいわゆる余剰資金であり、他の用途の決まっ
ているお金に比べて自由度が高く運用に回すことができます。

この資金で
資産運用！



投資割合と資産全体の期待リターンの変化

余剰資金が確認できたら、次は「どのくらいを運用に活用するか」を考えてみましょう。
運用資産の期待リターンが同じでも、資産全体に占める運用資産の割合によって、資産全体の期待
リターンは異なります。

ご自身の資産運用の目的やゴールも踏まえながら、無理のない運用割合を考える参考として、下の
グラフをご覧ください。大切なのは、できるだけ多くの資金を運用に回すことではなく、ご自身が安心して
続けられる資産配分を見つけることです。

● 運用割合による資産全体への影響 (資産全体の期待リターンの変化)

		運用資産の期待リターン (年率)				
		3%	7%	10%	13%	15%
資産全体に 占める運用 資産の割合	10%	0.66%	1.06%	1.36%	1.66%	1.86%
	20%	0.92%	1.72%	2.32%	2.92%	3.32%
	30%	1.18%	2.38%	3.28%	4.18%	4.78%
	40%	1.44%	3.04%	4.24%	5.44%	6.24%
	50%	1.70%	3.70%	5.20%	6.70%	7.70%
	60%	1.96%	4.36%	6.16%	7.96%	9.16%

※ 資産全体のうち、運用に回していない資産については預金で保有していると仮定し、八十二長野銀行の普通預金金利0.40%(2026年8月末基準)を
前提に資産全体の期待リターンを算出しています。

(例) 全資産のうち、運用割合が10%(残り90%は普通預金)、運用資産の期待リターンが3%の場合、資産全体の期待リターンは1年で0.66%となります。

【免責事項】

○本資料は、公表された資料に基づき作成されたものであり、その正確性、完全性を保証するものではありません。
○本資料は、お客様への情報提供を目的としたものであり、投資に関する最終決定は、お客様ご自身の
判断でなされるようお願い申し上げます。また、本資料をお客様ご自身のためのみに、お客様限りでご
利用ください。なお、当社の事前の承諾を得ることなく、本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転
送等により使用することを禁じます。
○本資料に基づき投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、当社は、理由の如何
を問わず責任を負いません。

広告審査済